

《 学部消息 》

教 授 会 メ モ

2年12月19日（水）定例教授会

理学部 4号館 1320号室

- 議題 (1) 人事異動等報告
 (2) 奨学寄附金の受入れについて
 (3) 物品寄附の受入れについて
 (4) 人事委員会報告
 (5) 教務委員会報告
 (6) 東京大学理学部規則「別表」の一部改正について
 (7) 企画委員会報告
 (8) 理学院計画委員会報告
 (9) その他

3年1月16日（水）定例教授会

理学部 4号館 1320号室

- 議題 (1) 人事異動等報告
 (2) 奨学寄附金の受入れについて
 (3) 平成2年度受託研究員の受入れについて
 (4) 人事委員会報告
 (5) 企画委員会報告
 (6) 理学院計画委員会報告
 (7) その他

3年2月20日（水）定例教授会

理学部 4号館 1320号室

- 議題 (1) 人事異動等報告
 (2) 奨学寄附金の受入れについて
 (3) 物品寄附の受入れについて
 (4) 附属植物園利用規則の一部改正について
 (5) 人事委員会報告
 (6) 教務委員会報告
 (7) 会計委員会報告
 (8) 企画委員会報告
 (9) 理学院計画委員会報告
 (10) 植物園長の選出について
 (11) 素粒子物理国際センター長の選出について
 (12) 中間子科学研究センター長の選出について
 (13) 遺伝子実験施設長の選出について
 (14) 人事委員会及び会計委員会委員の半数改選について
 (15) その他

人 事 異 動 報 告

(講師以上)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	講 師	川 島 隆 幸	2.12.16	昇 任	助手より
"	"	永 田 敬	"	"	"
地 質	助 教 授	伊 藤 谷 生	3. 2. 1	"	千葉大学理学部教授へ
情 報	"	平 木 敬	3. 2. 1	転 任	工業技術院電子技術総合研究所より

(助 手)

化 学	助 手	酒 井 陽 一	2.12. 1	復 職	
鉱 物	"	工 藤 康 弘	"	昇 任	東北大学理学部助教授へ
化 学	"	佐々木 誠	3. 1. 1	転 任	工業技術院化学技術研究所より
鉱 物	"	齋 藤 洋 子	"	採 用	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
素粒子物理学	助手	岡村弘之	3. 1. 1	配置換	物理助手より
天文研	"	小森文夫	"	昇任	物性研究所助教授へ
人類	"	関口真木	"	転任	国立天文台助手へ
	"	斎藤成也	3. 1. 16	昇任	国立遺伝学研究所助教授へ

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
化学	事務官	真原節子	2. 12. 1	転任	工業技術院化学技術研究所へ
事務部	図書掛長	高橋由美子	2. 12. 11	死亡	
植物園	技官	石井栄一	2. 12. 31	勸奨退職	
天文	事務室主任	本木たい子	"	"	
物理	事務官	今村紀子	3. 1. 1	配置換	庶務部留学生課へ
化学	技官	吉田和行	"	採用	
事務部	図書掛長	西田恵子	3. 1. 16	昇任	教育学部図書運用掛より

外国人客員研究員報告

所属	受入れ教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
数学科	落合教授	フィリピン	SY Polly Wee	フィリピン大学助教授	平3. 3. 28 ~ 平3. 6. 25	
物理学科	小林助教授	アメリカ合衆国	HALLE, Scott David	日本学術振興会外国人特別研究員	平2. 2. 23 ~ 平4. 1. 22	平2. 1月教授会報告済の延長：延長前期間2. 2. 23~3. 2. 22で了承されたもの
天文学科	内田教授	日本	木村博	中国科学院紫金山天文台教授	平2. 12. 20 ~ 平3. 3. 31	
地学科	武田教授	アメリカ合衆国	SMYTH, Joseph Richard	コロラド大学教授	平3. 1. 17 ~ 平3. 3. 15	

理学博士学位授与者

平成2年11月26日付 (6名)

物理学	林茂広	核子あたり 14.5 GeV の ^1H 及び ^{28}Si 入射による核反応からのハドロン生成
論文博士	社本真一	高温超伝導体の単結晶作成とその物性
論文博士	田村英一	スピン偏極低速電子線回折—最近の理論的發展とその応用
論文博士	町田慎二	低エネルギー陽子シンクロトロンにおける空間電荷効果
論文博士	松元和幸	固体ヘリウムの核磁気緩和時間に関する研究—現象論的モデルにもとづく T_1 および T_2 の導出—
論文博士	山田修義	マンガン—ゲルマニウム系金属間化合物の磁性

平成2年12月14日付（6名）

化学	朴春根	低温アルゴンマトリックス中に単離した1,2-エタンジオール及び1,2-プロパンジオールの赤外光誘起回転異性化反応に関する研究
論文博士	小林俊行	簡約型等質空間への固有な作用
論文博士	加藤晃史	共形場の理論：分類，演算子積代数および可積分変形
論文博士	近藤裕昭	関東平野における広域的局地風のメカニズムに関する数値的研究
論文博士	鶴川彰人	BEDT-TTF及びDCNQIを用いた有機伝導体の電子構造の系統的研究
論文博士	大富美智子	ニワトリの肝臓，松果体，腎臓および脳におけるN-アセチルトランスフェラーゼの分子生物学的および生化学的研究

平成3年1月28日付（3名）

論文博士	吉野泰造	K-3型超長基線電波干渉計システムによる地球回転監視
論文博士	猪川元興	2次元の山を越える多層大気的非線形領域の流れについて
論文博士	遠藤幸子	ウニ卵分裂装置の微小管形成機構に関する形態学的研究

海外渡航者

（6月以上）

所属官職	氏名	渡航先	期間	目的
素粒子助手	塚本俊夫	スイス フランス	3. 1. 4～ 3. 12. 23	レプトンを含む過程のデータ解析及び国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため

理学部長と理職の交渉

11月19日と12月17日と1月21日に理学部長と理学部職員組合（理職）の定例の学部長交渉が行われた。その主な内容は以下の通りである。

1. 理学院計画について

11月交渉で理職は、理学院計画の進展状況および改革の要点について質問した。大学院重視、学科目制という大枠は教授会で承認されたが、より細かい問題については現在検討中であり、各教室にアンケートを依頼しているので、それが上がってきたのちに説明会をひらく予定である、と回答した。また法学部での専修コース設置に伴う、大学院の入学資格の変更に対しては理学部は反対の態度を取る、と回答した。1月交渉で説明会は2月中旬に職員向けに、2月下旬に学生向けにひらく予定である、と回答した。

2. 技術職員問題について

11月交渉で理職は、12月12日の総会についての運営方法について尋ねた。学部長は説明会も兼ねてひらくが、問題になっている事項を議論するだけで決定するものではない、と回答した。12月交渉では理職は、総会で上がった意見・要望を取り上げて欲しい。技術部室を作って欲しい、と求めた。学部長は意見は取り入れて行きたい、部屋に関しては各教室との協議が必要であるから建物小委員会にかけて検討する、と回答した。

3. 職員の昇格・昇給等の待遇改善について

11月交渉で理職は、東大職員組合と事務局長との交渉で、庶務部長が今年10月1日の掛主任発令（全学で10名－全員異動なし－、理学部ではゼロ）に関して、事務長ヒアリングを基礎に置きながらも、4月に強い要望の出ていた部局に発令したと取れる発言をしていたことをあげ、機会あるごとに本部に対し強く要望を出して欲しい、また、今年のヒアリングに対して、昇任のためには異動を条件としていないと明示していたことから、有資格者が多い理学部での一層の努力を求める要望書を手渡した。事務長は、有資格者全員を順位をつけずに提出した。昇格は本部が決定する、また

5月のポスト要求（概算要求）の結果も見なければならない、と回答した。理職は、東大は事務職の男女差別がはなはだしく、掛長は男性290に対し女性7である。特に教室事務関係は男女差別が顕著であるが、このような事態に対する学部長の所見を尋ねた。学部長はひどすぎると思う、全職員の男女比に近付くように努力すべきだと思う、大学院重点化にともなう改組時には、なるべく是正するようにしたい、と回答した。

12月交渉で理職は、ヒアリングの内容について質問した。事務長は11月30日に人事課長と約1時間に渡って会談し、20数名の昇格をお願いした、これにはかなりの人数の異動の希望も含んでいる、数名の実現を期待している、と回答した。理職は、教室主任から「この人を事務主任に」というような推薦があった例があるか、と尋ねた。学部長は、推薦の例があり、そのような推薦があった方が動きやすいと回答した。

1月交渉で理職は、他部局で1月1日付けで昇格の発令があり、工学部では3級19号俸の方が昇格したが、理学部ではまたしてもゼロであったことから、その理由を質問し、また重ねて理学部の高位号俸者も昇格できるように努力して欲しい、と要望した。事務長は今回の昇格は年度途中で辞めた人を学内での運用で補充したものと理解している、また11月のヒアリングで推薦を出したが、その後も折有るごとにお願いを続けている、と回答した。

4. 行(二)から行(一)への振り替えについて

12月交渉で理職は、労務(乙)(用務員)について、人事院給与局長が「二年がかりで3級を暫定で運用する。」とのことだったが、何か調査は来ているか?と尋ねた。事務長は、8月に調査があり、3人の推薦を行ったと答えた。

1月交渉で理職は、以前から要望している行(二)→行(一)の振り替えについて、事務長が12月の交渉の際に、政府予算案が出てきたあとになんらかの回答ができる、という答えたことを受けて尋ねた。事務長は、気候システム研究センターと地球惑星物理学の機構変更に伴い、行(二)のポストが行(一)ポストに変更になったが、運用については現在検討中である、と答えた。理職は、いままで行(二)→行(一)振替は5年間の経過処置のあと実現されており、以前から推薦していた人はすでに5年

以上経っているので、ポスト変更とは別に努力し、新しいポストは定員外の職員の定員化に運用して欲しい、と要望した。

5. 定員外職員の定員化

11月交渉で理職は、定員外職員の定員化について、関係教室からの要望があったか尋ねた。事務長は、あったと回答し、今後も定員外職員を定員化する努力を続けると述べた。また1月交渉で理職は、気候システム研究センターと地球惑星物理学科の機構変更に伴い、前から推薦している人の定員化に新たな展開があるのではないか、と尋ねた。事務長は、機構変更と定員化は別の問題であると理解している。他に非常勤の人もいたので、全体のことも考えなければいけない。現在定員化の新しい道を模索している、と答えた。

6. 教務職員問題

12月交渉で理職は、教務職員問題の現状について質問した。学部長は、高位号俸者の仕事について教室主任に調査してもらい、検討を進めて助手化を考えている。具体的な名前はここでは出せないが、かなり可能性は高いと思っている、と答えた。理職は、1962年10月1日以降の採用の者と以前の採用の者に助手化の際

に不公平が生じることについて（以前の者が採用時から助手であったとして処遇されるのに対し、以後の者はそうではない）、同じ職場の中で不公平感を持つことになるので、なんとか改善をお願いしたい、と要請した。事務長は、この問題については我々もたいへん懸念している、と答えた。理職は、この問題は明らかに制度上の欠陥であり、これを避けるためにも早い号俸での助手化を実現する様に努力をお願いする、と述べた。

1月交渉で理職は、総長・学部長の努力もあって助手化の道がかなり開けてきたと理解しているが、この問題は待遇改善の一環であるから、高位号俸者は全員すみやかに助手化されるように努力して欲しい、と述べた。学部長は、助手化はあくまで教官人事であるから、業績等によってある程度の時間の差異が生じることはやむを得ないが、高位号俸者は近いうちに全員助手化されるよう努力する。少なくとも来年度中に2名の助手化が行なえるようにしたい、と答えた。理職は、助手化されたあとの教務職員のポストをどうするつもりなのか、尋ねた。学部長は、すぐ埋めることはしない。教務職員は解消に向けなければいけないから、よく検討して運用する必要がある、と答えた。